

「フィリポとナタナエル、弟子になる」

2024年09月25日

フィリポはナタナエルに出会って言った。「私たちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。ナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」ナタナエルが、「ナザレから何の良いものが出ようか」と言うと、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。(ヨハネ 1:45~46)

ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。それよりも、もっと大きなことをあなたは見るであろう。」さらに言われた。「よくよく言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」(ヨハネ 1:49~51)

洗礼者ヨハネの弟子であった二人(アンデレとヨハネ)とペトロが主イエスの最初の弟子になった。その翌日、ガリラヤに行こうとされた主イエスは、フィリポに出会って、「私に従いなさい」と言われた。フィリポはペトロ、アンデレ兄弟と同じベトサイダ出身で、理性的で実証的な見方をする人であったが、主イエスの一言を聞いて、心に納得するものがあったのであろう、主イエスに従った。彼は友人のナタナエルに出会い、「私たちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。ナザレの人で、ヨセフの子イエスだ」と言った。もちろん、ナタナエルを主イエスに会わせたいと誘った訳である。物知りなフィリポは、モーセの律法に記され、預言者たちも書いている方に出会った、それはナザレのヨセフの子イエスだと、遠回しにナザレのイエスはメシアだと告げている。アンデレが兄ペトロに「メシアに出会った」と単刀直入に告げたのとは対照的である。するとナタナエルは、「ナザレから何の良いものが出ようか」と応じた。ナタナエルは家柄、育ちのよい人であったようだ。ナザレのイエスと聞いて、寒村のナザレから、良い師が、ましてメシアが出るはずがないと答えた。彼は既成の伝統に固執する人であった。フィリポは、「来て、見なさい」と言った。フィリポは実証的な人であったので、今度は「来て、見なさい」と単刀直入に、主イエスの所に来て、見なさいと勧めた。

ナタナエルがフィリポの勧めに応じ、主イエスの方に来るのを見て、主イエスは、「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りがない」と言われた。彼が、「どうして私を知っておられるのですか」と問うと、主イエスは、「私はあなたがフィリポに話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と答えられた。「いちじくの木の下」は木陰で休むための場ではなく、祈りの場である。主イエスは、ナタナエルがイスラエルの伝統に従って、熱心に祈る偽りのない姿を見たと言うと、彼は、「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」と、感激をもって答えた。イエスは、「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。それよりも、もっと大きなことをあなたは見るであろう」と言われ、更に、「よくよく言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」と、傾注して聞くように促し、人の子メシアである私の上に天使たちが昇り降りするのを見ると予告された。ナタナエルは主イエスの言葉によって捕らえられて弟子となり、復活した主イエスとディベリア湖で、弟子たちと共に会食したと記されている。出自を誇り、既成の宗教に拘る考えから解放され、主イエスの弟子として生きたのではないか。